Cisco UCS Server Configuration Utility リリース 3.1(6) ユーザ ガイド

Cisco UCS C シリーズ サーバ向け

14/05/05

Cisco Systems, Inc.
www.cisco.com

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。
Addresses, phone numbers, and fax numbers
are listed on the Cisco website at
www.cisco.com/go/offices.

Text Part Number: OL-32048-01-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。本機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信障害を引き起こす場合があります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 機器と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに機器を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビの専門技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. シスコの商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks でご確認いただけます。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco UCS Server Configuration Utility リリース 3.1(6)
© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

はじめに 1
対象読者 1
マニュアルの構成 1
関連資料 2
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート 2

概要 1-1
サポートされるオペレーティング システム 1-1
サポートされるプラットフォーム 1-2
サポートされている周辺デバイス 1-2
ハードウェア要件 1-2

UCS Server Configuration Utility の起動 2-1
cisco.com からの ISO イメージの取得 2-1
UCS-SCU のブート 2-2
Cisco Flexible Flash の使用 2-2
Cisco Flexible Flash について 2-2
Cisco Flexible Flash からのブート 2-2
仮想メディアの使用 2-3
KVM コンソールについて 2-3
仮想 KVM コンソールの開始 2-3
仮想 KVM コンソールからのブート 2-4
物理メディアの使用 2-4
UCS-SCU の終了 2-5

UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて 3-1
ライセンス契約書 3-1
UCS-SCU GUI ホーム ページ 3-2
[Navigation] ペイン 3-3
[Toolbar] ペイン 3-4
ネットワークの設定 3-5
サーバ ヘルス チェックの実行 3-6
ログの保存 3-6
サーバ スナップショットの使用 3-6

ハイパーバイザ パーティションの同期 3-9
サーバのリブート 3-10

サーバ インベントリの表示 4-1

サーバ ヘルスの表示 5-1

オペレーティング システムのインストール 6-1
高速インストール 6-1
カスタム インストール 6-4
Windows Server 2008 R2 オペレーティング システムのインストール 6-4
パーソナライズ 6-5
インストール パーティション 6-5
ネットワーク設定 6-6
インストール ドライバ 6-8
Linux Server Series オペレーティング システムのインストール 6-10
基本設定 6-11
パッケージの選択 6-11
ネットワーク設定 6-11
SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのインストール 6-12
基本設定 6-12
パッケージの選択 6-13
ネットワーク設定 6-13

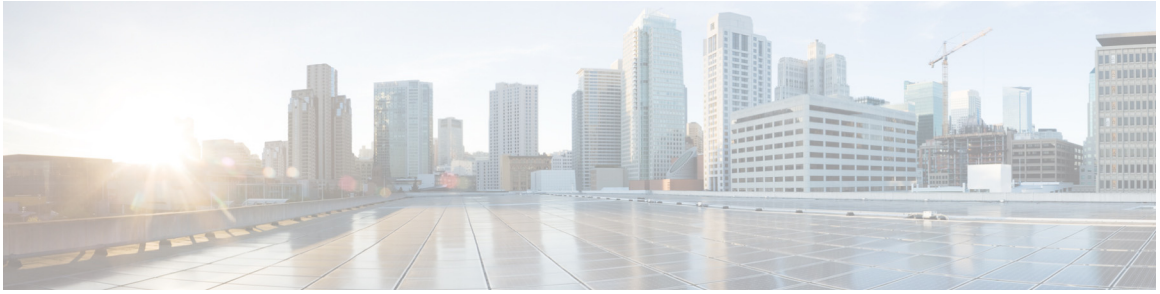
診断ツール 7-1
診断ツールの機能 7-1
診断ツールの使用 7-2
クイック テスト 7-3
包括的テスト 7-4
クイック タスク 7-5
テスト スイート 7-5
テスト ログの概要 7-5
テストの要約 7-6
非インタラクティブ オフライン診断 7-6

ブート順と RAID レベルの設定 8-1
ブート順の設定 8-1
RAID 設定 8-2
RAID 設定ページのコンポーネント 8-2
物理ディスク テーブル 8-2
論理ディスク テーブル 8-3

RAID アレイの設定 8-4
冗長性を伴わない自動セットアップ 8-5
冗長性を伴う自動セットアップ 8-5
Single-Level RAID の設定 8-6
ネストされた RAID の設定 8-7
RAID アレイのクリア 8-8
すべての仮想ディスクの削除 8-8
単一または複数ディスクの削除 8-8

ログの表示 9-1
システム ログ 9-1
System Event Log 9-1

トラブルシューティング 10-1
UCS-SCU 問題および解決方法 10-1



はじめに

ここでは、『*Cisco UCS Server Configuration Utility リリース 3.1(6)*』の構成および表記法について説明します。また、関連資料の入手方法やテクニカル サポートの受け方についても説明します。

対象読者

このガイドは、サーバ、ストレージ、ネットワークの管理およびネットワーク セキュリティに責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

章	タイトル	説明
第 1 章	概要	ユーティリティの概要と提供されている機能について説明します。
第 2 章	UCS Server Configuration Utility の起動	ユーティリティを起動する方法について説明します。
第 3 章	UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて	GUI とその要素に関する情報が含まれます。
第 4 章	サーバ インベントリの表示	サーバ インベントリの表示に関する情報が含まれます。
第 5 章	サーバ ヘルスの表示	サーバ ヘルスの表示に関する情報が含まれています。
第 6 章	ブート順と RAID レベルの設定	BIOS のブート順と RAID レベルに関する情報が含まれます。
第 7 章	オペレーティング システムのインストール	オペレーティング システムのインストールに関する情報が含まれます。
第 8 章	診断ツール	診断ツールに関する情報が含まれます。
第 9 章	ログの表示	システム ログおよびシステム イベント ログの表示に関する情報が含まれます。
第 10 章	トラブルシューティング	トラブルシューティング情報と FAQ が含まれます。

未完成ドキュメント（レビュー要）- シスコ社外秘

関連資料

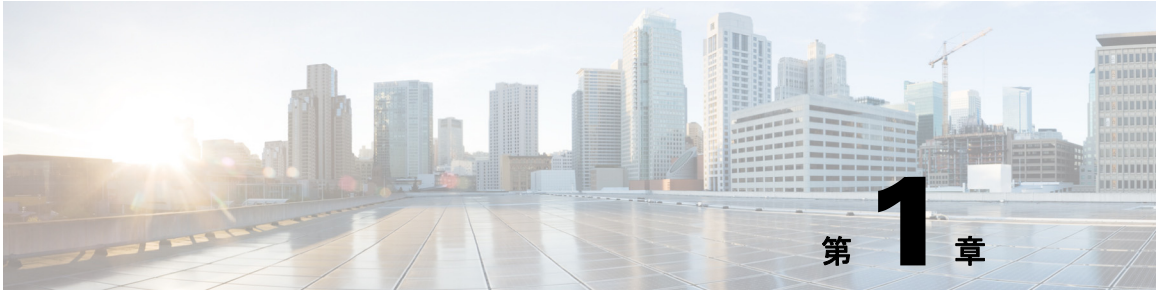
Cisco Unified Computing System（UCS）C シリーズ ラックマウント サーバのマニュアル セットについては、次のリンク先にあるロードマップ ドキュメントを参照してください。

『Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap』

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示し、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



概要

Cisco UCS Server Configuration Utility（SCU）は、サーバ上のさまざまなタスクを管理するのに役立つアプリケーションです。このユーティリティは、単一のアプリケーションからサーバを簡単に設定および管理するのに役立ちます。

UCS-SCU は、Cisco C シリーズ サーバの設定と保守に関連する複雑さを軽減し、時間を短縮します。サーバの導入も容易になります。このマニュアルには、最小限のリブートおよびオペレーティング システムの自動的な無人インストールで、サーバ ハードウェアの自動認識を通じてサーバをすばやく設定するために役立つ質問を示します。

SCU を使用すると、次の作業を実行できます。

- UCS C-Series サーバをアップグレード、トラブルシューティング、および設定する
- サーバ インベントリを表示する
- BIOS のブート順序を設定する
- 接続されているハード ドライブの RAID ボリュームを設定します。
- オペレーティング システムをインストールする
- インタラクティブ オフライン診断を実行します。
- サーバの状態およびログを表示する

（注） Cisco UCS SCU は国際化をサポートしていません。

この章は、次の項で構成されています。

- 「サポートされるオペレーティング システム」（P.1-1）
- 「サポートされるプラットフォーム」（P.1-2）
- 「サポートされている周辺デバイス」（P.1-2）
- 「ハードウェア要件」（P.1-2）

サポートされるオペレーティング システム

UCS-SCU は、次のオペレーティング システムの無人インストールをサポートしています。

- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2008 R2（64 ビット）

- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 4（x86-64）
- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 5
- SuSE Linux Enterprise Server 11 Service Pack 3（SP3）

サポートされるプラットフォーム

UCS-SCU は Cisco C460 M4 の Cisco プラットフォームをサポートします。

サポートされている周辺デバイス

表 1-1 に、UCS-SCU でサポートされる LOM および LSI コントローラ デバイスを示します。

表 1-1　LOM および LSI コントローラ デバイス

Server	LOM デバイス	LSI コントローラ	サポートされる RAID レベル
C460 M4	• Intel 1350 • Intel x540	LSI 9361-8i	• 0、1、5、6、10、50、60

（注） UCS-SCU の RAID 設定ユーティリティは、システムの再起動後にこの機能エリアを開始した後でのみ物理ドライバを検出します。この機能エリア内で移動中にハード ディスクのドライバを削除または追加しないでください。

（注） 一部の LSI RAID コントローラは、RAID 設定中の動作完了に時間がかかります。SCU はこの問題を制御しません。回避策として、RAID を再作成するか、動作が完了するのを待つことができます。

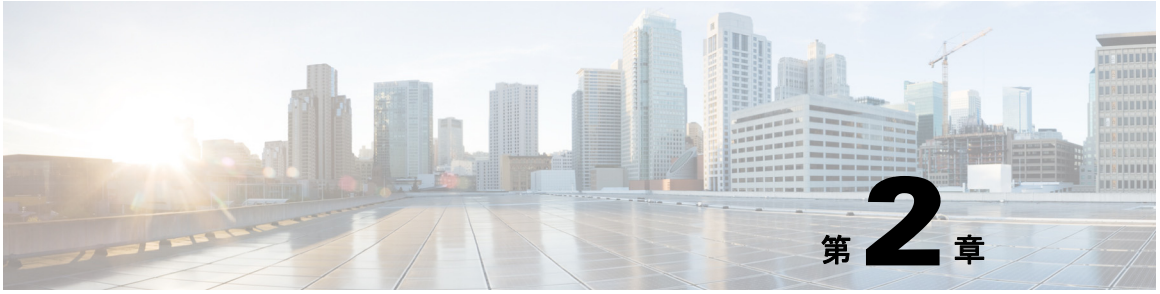
ハードウェア要件

次に、UCS-SCU の最低ハードウェア要件を示します。

- CD-ROM ドライブ : UCS-SCU を起動し、実行するためには、USB CD/DVD-ROM ドライブが必要です。UCS-SCU を起動するために、CIMC KVM で仮想メディア オプションも使用できます。
- マウス : 一部の機能では、ナビゲーション用に標準マウス（PS/2 または USB）が必要です。
- USB ディスクオンキー デバイス : UCS-SCU のログの保存などの機能のために、USB ディスクオンキーが必要です。
- RAM : 最低 1 GB の RAM。使用可能な RAM が最低推奨値より小さい場合、UCS-SCU は適切に機能しません。
- ネットワーク アダプタ : support.cisco.com からの OS ドライバのダウンロードなど、一部のオプション機能にはネットワーク アクセスが必要です。任意の単一のオンボード NIC アダプタ接続がサポートされます。

（注）　現在 UCS-SCU は Intel と Broadcom のアダプタのみをサポートします。

- RAID カード：RAID 設定および OS のインストールは、選択されたコントローラでサポートされます。詳細については、次のマニュアルを参照してください。
  - 『Hardware and Software Interoperability Matrix』



UCS Server Configuration Utility の起動

UCS Server Configuration Utility（SCU）は 32 ビット Linux カーネルに基づくブート可能イメージです。シスコのラック サーバで BIOS セットアップ、RAID 論理ボリュームの設定、オペレーティング システムのインストール、診断などの操作を実行できます。これは、一度に 1 つのサーバで実行されるように設計されています。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「cisco.com からの ISO イメージの取得」（P.2-1）
- 「UCS-SCU のブート」（P.2-2）
- 「UCS-SCU の終了」（P.2-5）

cisco.com からの ISO イメージの取得

サーバ用の ISO ファイルをオンラインで検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html に移動します。

ステップ 2 中央のカラムで [**Unified Computing**] をクリックします。

ステップ 3 右側のカラムで [**Cisco UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software**] をクリックします。

ステップ 4 右側のカラムのサーバ モデルの名前をクリックします。

ステップ 5 [Select a Software Type] リストで、[**Unified Computing System (UCS) Server Configuration Utility**] を選択します。

[Download Software] ページが表示され、リリース バージョンおよび UCS-SCU イメージが示されます。

ステップ 6 [**Download Now**] をクリックして ISO ファイルをダウンロードします。

ステップ 7 次のページで情報を確認後、[**Proceed With Download**] をクリックします。プロンプトが表示された場合は、cisco.com の資格情報を使用して、ログインします。

ステップ 8 次の画面に進んでライセンス契約書に同意し、SCU ISO ファイルを保存する場所を参照します。

UCS-SCU のブート

次のいずれかのオプションを使用して、UCS-SCU アプリケーションを起動できます。

- 「Cisco Flexible Flash の使用」（P.2-2）
- 「仮想メディアの使用」（P.2-3）
- 「物理メディアの使用」（P.2-4）

Cisco Flexible Flash の使用

ここでは、次の内容について説明します。

- 「Cisco Flexible Flash について」（P.2-2）
- 「Cisco Flexible Flash からのブート」（P.2-2）

Cisco Flexible Flash について

一部の C シリーズ ラックマウント サーバは、サーバ ソフトウェア ツールおよびユーティリティのストレージとして、内部 Secure Digital（SD）メモリ カードをサポートします。SD カードは、Cisco Flexible Flash ストレージ アダプタによってホストされます。

CIMC 1.5(4) リリース以降、CIMC では SD ストレージ デバイスを単一のハイパーバイザのパーティションとして使用可能です。以前のバージョンでは 4 つの仮想ドライブがありました。ドライブのうち 3 つには、シスコのソフトウェアがあらかじめロードされており、4 つ目のドライブには、ユーザがハイパーバイザまたはその他のコンテンツをインストールできます。（ブート可能）

Cisco Flexible Flash からのブート

Cisco Flexible Flash カードから UCS-SCU をロードするには、次の手順を実行します

ステップ 1　起動時に、ブート選択メニューを開始するには、**F6** キーを押します。

ブート選択メニューが表示されます。

ステップ 2　SCU を選択するには、矢印キーを使用し、**Enter** キーを押します。

（注）　**F6** ブート選択画面の [**Drivers**] オプションは、ブート可能なオプションではありません。誤ってこのオプションを選択すると、回避策としてサーバを再起動し、異なるオプションを選択する必要があります。[**HUU**] オプションと [**SCU**] オプションは、ブート可能です。

仮想メディアの使用

仮想メディアを使用した UCS-SCU アプリケーションのブートに KVM コンソールを使用できます。ここでは、次の内容について説明します。

- 「KVM コンソールについて」（P.2-3）
- 「仮想 KVM コンソールの開始」（P.2-3）
- 「仮想 KVM コンソールからのブート」（P.2-4）

KVM コンソールについて

KVM コンソールは CIMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス（KVM）の直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。

（注）　KVM コンソールには、Java Runtime Environment（JRE）バージョン 1.5.0 以降が必要です。

KVM コンソールには次のタブがあります。

- [KVM]：このタブには、アプリケーションの起動時に UCS-SCU アプリケーションが表示されます。
- [Virtual Media]：このタブでは、仮想ドライブに次のものを対応付けることができます。
  - コンピュータまたはネットワーク上の CD/DVD
  - コンピュータまたはネットワーク上のディスク イメージ ファイル（ISO または IMG ファイル）
  - コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ

仮想 KVM コンソールの開始

仮想 KVM コンソールを開始するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　CIMC にログインします。

ステップ 2　[**Launch KVM Console**] をクリックします。

仮想 KVM コンソールにサーバ コンソールが表示されます。

仮想 KVM コンソールからのブート

はじめる前に

- cisco.com から UCS-SCU ISO イメージ ファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「cisco.com からの ISO イメージの取得」（P.2-1）を参照してください。

仮想 KVM コンソールを使用して UCS-SCU アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　デスクトップから CIMC にログインします。

ステップ 2　KVM コンソールを起動するには、[**Launch KVM Console**] をクリックします。

ステップ 3　[**Virtual Media**] タブをクリックします。

[Virtual Media] タブが開きます。

ステップ 4　[**Add Image**] をクリックします。

ステップ 5　ISO ファイルを参照して選択し、[**Open**] をクリックしてイメージをマウントします。

ステップ 6　[Client View] セクションで、追加した ISO ファイルに対応する [Mapped] カラムのチェックボックスを選択して、マッピングが完了するのを待ちます。

KVM コンソールの [Details] セクションに進行状況が表示されます。

ステップ 7　CIMC で [**Power Cycle Server**] をクリックしてサーバをリブートします。

ステップ 8　サーバが起動したら、**F6** キーを押してブート デバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

ステップ 9　[Cisco Virtual CD/DVD] を選択するには、矢印キーを使用し、**Enter** キーを押します。

サーバは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。

物理メディアの使用

はじめる前に

- cisco.com から UCS-SCU ISO イメージ ファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「cisco.com からの ISO イメージの取得」（P.2-1）を参照してください。
- .iso CD を書き込むアプリケーションを使用して .iso CD 作成します。

物理 CD/DVD を使用してサーバ上でアプリケーションをブートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　USB ポート経由でサーバに USB DVD ドライブを接続します。

ステップ 2　DVD ドライブに物理メディアを挿入します。

ステップ 3　サーバを再起動し、**F6** キーを押してブート選択メニューを表示します。ブート デバイスとして **CDROM ドライブ**を選択します。

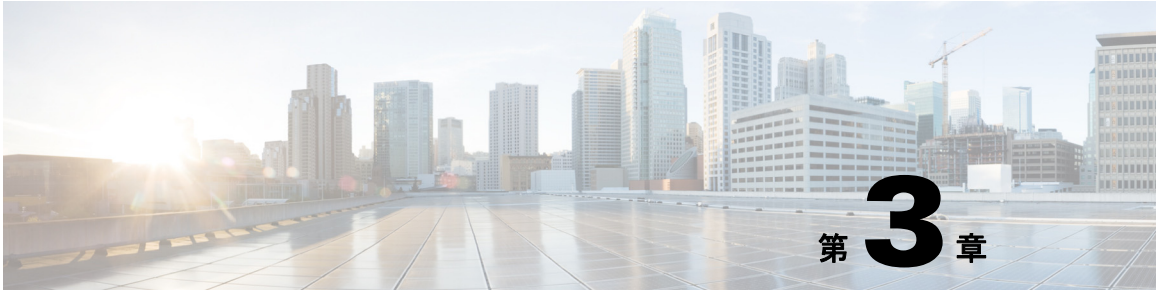
サーバは UCS-SCU イメージを使用して起動し、アプリケーションを開始します。

UCS-SCU の終了

UCS-SCU アプリケーションを終了するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ディスク ドライブからの .iso ディスクを取り出します。

ステップ 2　[**Reboot**] をクリックして、サーバのリブートを確認するために [**Yes**] をクリックします。



UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて

UCS-SCU GUI は、オペレーティング システムのインストール、RAID 設定、ファームウェアの更新などのタスクを実行できる Web ベースの管理インターフェイスです。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ライセンス契約書」（P.3-1）
- 「UCS-SCU GUI ホーム ページ」（P.3-2）

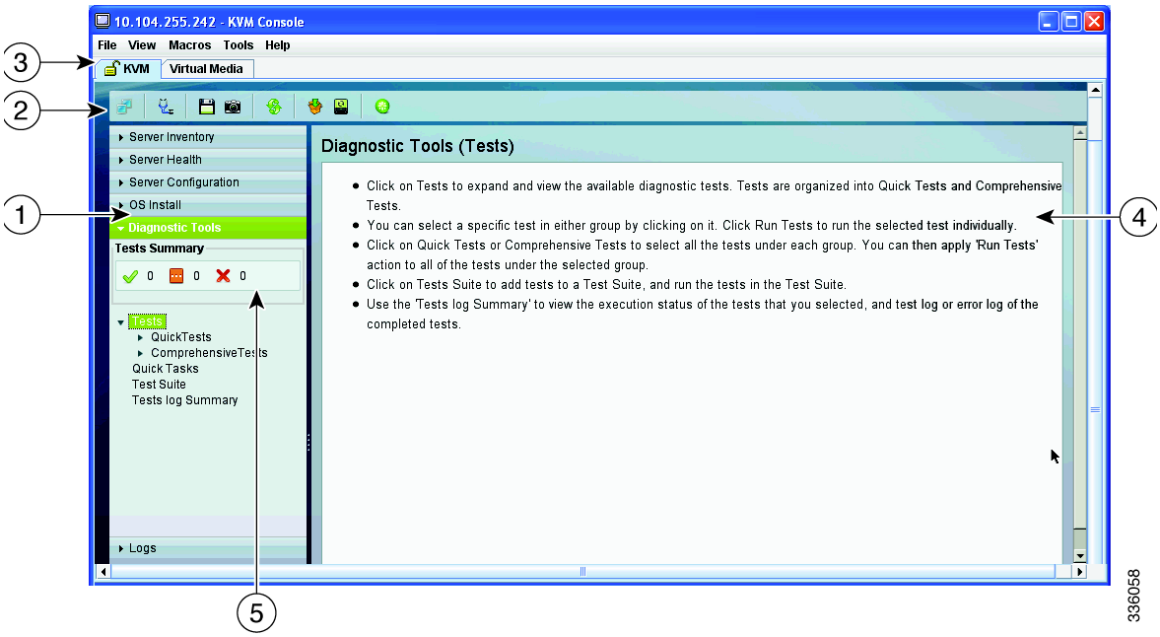
ライセンス契約書

UCS-SCU が起動したら、最初のインターフェイスは、エンド ユーザ ライセンス契約です。**[I Accept]** を選択して **[Next]** をクリックし、このライセンスに同意します。

UCS-SCU GUI ホーム ページ

図 3-1 に UCS-SCU GUI および GUI のさまざまな要素を示し、表 3-1 に各要素の説明を示します。

図 3-1　　UCS-SCU GUI



1	[Navigation] ペイン
2	ツールバー
3	タブ
4	[Content] ペイン
5	[Tests Summary] ペイン

表 3-1　　UCS-SCU GUI の要素

要素	説明
[Navigation] ペイン	UCS-SCU のユーザ インターフェイスの左側に表示されます。すべてのナビゲーション ペインの要素の説明については、表 3-2 を参照してください。
ツールバー	左上隅に表示され、一連のアイコンがあります。すべてのツールバーアイコンの説明については、表 3-3 を参照してください。
タブ	UCS-SCU の次のオプションがあります。 • [KVM]：KVM コンソールを開始するには、このタブを使用します。 • [Virtual Media]：仮想メディアにアクセスするには、このタブを使用します。

表 3-1　UCS-SCU GUI の要素 （続き）

要素	説明
Help	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。
[Content] ペイン	GUI の右側に表示されます。[Navigation] ペインで選択したタブに応じて、異なるページがコンテンツ ペインに表示されます。
[Tests Summary] ペイン	合格したテストの詳細、キュー内のテスト、テストの失敗が表示されます。診断ツールが選択されている場合にだけ表示されます。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「[Navigation] ペイン」（P.3-3）
- 「[Toolbar] ペイン」（P.3-4）

[Navigation] ペイン

表 3-2 で、[Navigation] ペインの要素について説明します。

表 3-2　[Navigation] ペインの要素

要素	説明
Server Inventory	サーバの情報およびインベントリを表示します。 次のページへのリンクがあります。 • Server Information • インベントリ サーバ インベントリの詳細については、第 4 章「サーバ インベントリの表示」を参照してください。
Server Health	CPU、メモリ、電源、ファン、ストレージ、PCI デバイス、BIOS、および CIMC などのサーバのサブシステムの状態を表示します。 サーバ ヘルスの詳細については、第 5 章「サーバ ヘルスの表示」を参照してください。
Server Configuration	BIOS のブート順を設定し、サーバの接続されたハードドライブの RAID ボリュームを設定します。 次のページへのリンクがあります。 • ブート順の設定 • RAID 設定 サーバ設定の詳細については、第 8 章「ブート順と RAID レベルの設定」を参照してください。

表 3-2　[Navigation] ペインの要素 （続き）

要素	説明
OS Install	完全な無人モードで RHEL、SLES、Windows オペレーティング システムをインストールします。すべてのオンボード コンポーネントの最新のドライバが、オペレーティング システムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。 OS インストールの詳細については、第 6 章「オペレーティング システムのインストール」を参照してください。
Diagnostic Tools	サーバ障害を検出するために、さまざまな種類の診断テストを実行できます。 診断ツールの詳細については、第 7 章「診断ツール」を参照してください。
Logs	サーバのシステム ログおよびシステム イベント ログが表示されます。 次のページへのリンクがあります。 • システム ログ • System Event Log ログの詳細については、第 9 章「ログの表示」を参照してください。

[Toolbar] ペイン

表 3-3で、特定のタスクを実行するために使用できるすべての UCS-SCU アイコンについて説明します。

表 3-3　ツールバーの要素

ツールバー アイコン	名前	機能
	Network Configuration	IP アドレス、DNS、サブネット マスク、および Cisco.com の資格情報を設定します。
	Probe Server	ヘルス チェックを実行します。
	Save Logs	USB にログを保存します。

表 3-3　　ツールバーの要素 （続き）

ツールバー アイコン	名前	機能
	Server Snapshot	サーバのその時点のインベントリを取得できます。
	Refresh	サポートされている場合、コンテンツ領域を更新します。
	Update	UCS-SCU、OS のドライバ、および Host Upgrade Utility の最新バージョンをダウンロードできます。
	HyperVisor Sync	同期外 RAID 1 パーティション内のディスクに書き込まれたデータを交換ディスクと同期できます。
	Reboot	サーバを再起動します。

ここでは、ツールバーの要素について詳細に説明します。

- 「ネットワークの設定」（P.3-5）
- 「サーバ ヘルス チェックの実行」（P.3-6）
- 「ログの保存」（P.3-6）
- 「サーバ スナップショットの使用」（P.3-6）
- 「Cisco.com からの更新」（P.3-8）
- 「ハイパーバイザ パーティションの同期」（P.3-9）
- 「サーバのリブート」（P.3-10）

ネットワークの設定

ネットワークを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ツールバーの [**Network Configuration**] ボタンをクリックします。

[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2　[Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a. [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
- [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。

– [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
– （任意）[DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。

（注）　cisco.com からソフトウェアおよびドライバをダウンロードする場合は、手順 b. に進みます。

b. [Direct Connection to internet] または [Manual Proxy] を選択します。[Manual Proxy] を選択した場合は、次の手順を実行します。

– [HTTP Proxy Server URL] フィールドに、プロキシ サーバの URL を入力します。最大文字数は 45 文字です。
– [Port] フィールドにポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。デフォルトでは 8080 です。
– [Proxy Server UserName] フィールドに、プロキシ サーバのユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
– [Proxy Server Password] フィールドに、プロキシ サーバのパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

ステップ 3　設定を保存するには、[**Configure**] をクリックします。

ネットワーク設定は 1 度だけ実行するプロセスであり、ネットワークを設定しない場合、次の手順の実行中に設定するように求められます。

- オペレーティング システムのインストール時に、ネットワーク共有または cisco.com からドライバをダウンロードするとき。（「インストール ドライバ」（P.6-8）を参照）。

サーバ ヘルス チェックの実行

Probe Server 機能では、サーバ サブシステムのヘルス チェックを実行できます。[Probe Server] アイコンをクリックすると、サーバ ヘルス チェックが開始されます。

ヘルス チェックの結果を表示するには、ナビゲーション ペインの [**Server Health**] タブをクリックします。

[Server Health] タブの詳細については、第 5 章「サーバ ヘルスの表示」を参照してください。

ログの保存

Save Logs 機能を使用してログ ファイルを保存できます。Save Logs を使用する前に、ログ ファイルを保存するための USB フラッシュ ドライブまたは vMedia を挿入する必要があります。

サーバ スナップショットの使用

UCS SCU のユーザ インターフェイスで Server Snapshot 機能を使用して、サーバのその時点のインベントリを取得できます。この機能では、特定の期間内のサーバのインベントリまたはコンポーネントを比較することができます。サーバのスナップショットを開始する前に、サーバに USB フラッシュ ドライブが接続されていることを確認します。フラッシュ ドライブが使用できないと、サーバ スナップショットで作成されたログ ファイルは保存されません。

サーバ スナップショットを開始すると、UCS SCU はサーバ コンポーネントに関する情報を取得し、サーバの状態を判断するために一連のクイック テストを実行します。サーバ スナップショットを開始すると、プロセッサ、メモリ、ディスク、キャッシュ、ネットワーク インタフェース テスト、QPI リンクおよびトラフィック、LSI バッテリ バックアップおよび RAID アダプタ テスト、チップセット テストなどの一連のクイック テストがサーバ上で実行されます。

サーバ スナップショット処理の完了時間は、インストールされているメモリ、物理ディスクの数とサイズ、ネットワーク インタフェースの数などのサーバ設定によって異なります。この処理は、30 ～ 45 分で完了する場合も、数時間かかる場合もあります。

サーバ スナップショット処理が完了すると、ログ ファイルが指定した USB フラッシュ ドライブに保存されます。ワードパッドなどの任意のエディタでこのログ ファイルを開くことができます。期間ごとのサーバ インベントリを比較できるように、これらのログ ファイルを特定の場所に保管することをお勧めします。複数のログ ファイルがある場合、サーバ インベントリの違いを表示するために、インターネットから入手した比較ツールを使用できます。

サーバのスナップショットを取得するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　サーバに、または vMedia を介して USB フラッシュ ドライブを接続します。

このフラッシュ ドライブがないと、サーバ スナップショット ログ ファイルを保存できません。フラッシュ ドライブにログ ファイルを保存するための十分なスペースがあることを確認してください。

ステップ 2　UCS SCU インターフェイスの [**Server Snapshot**] アイコンをクリックします。

USB フラッシュ ドライブの装着を求めるダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3　[**Yes**] をクリックして続行します。

ダイアログボックスで、ログ ファイルの保存先となる USB フラッシュ ドライブを選択するよう求められます。

ステップ 4　ドロップダウン メニューから、USB フラッシュ ドライブを選択し、[**Save**] をクリックします。

サーバ スナップショット処理が開始されます。この処理には、最大 20～30 分かかります。サーバ スナップショット処理の進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。この処理中は、サーバでその他のタスクを実行できません。処理中にいつでも、ダイアログボックスの [**Cancel**] をクリックして、サーバのスナップショット処理をキャンセルできます。

（注）　サーバ スナップショット処理中、KVM 接続が終了しても、サーバ スナップショット処理は中止されません。KVM コンソールに再度ログインすると、サーバのスナップショット処理がまだ実行中または実行完了したことがわかります。ただし USB フラッシュ ドライブが vMedia 経由で接続されている場合に KVM 接続が終了すると、USB フラッシュ ドライブへの接続が失われるので、サーバ スナップショット処理が停止します。

ステップ 5　スナップショット処理が完了すると、サーバ スナップショット処理が完了したことを示すダイアログボックス メッセージが表示されます [**OK**] をクリックします。

ログ ファイルは、USB フラッシュ ドライブに保存されます。ログ ファイルはテキスト ファイルであり、サーバ名とともに保存され、サーバ スナップショットが取得された日付が含まれます。たとえば、*UCSC_C260-BASE-2646_FCH1234345_06_08_2011* は 2001 年 8 月 6 日に UCS C-260 サーバ用に取得されたサーバ スナップショットのログ ファイル名です。

ステップ 6　任意のエディタでこのファイルを開きます。

（注）　一定の期間にわたり同じサーバのインベントリ情報を比較するため、比較のために常に使用できるように、これらのログ ファイルをアーカイブすることをお勧めします

サーバのクイック テストの実行中に、サーバのスナップショット機能は、サーバ コンポーネントがテストに合格したか失敗したかのみを判断できます。コンポーネントがクイック テストに合格しない理由は特定できません。サーバ スナップショット処理のログ ファイルの表示中に、サーバ コンポーネントがクイック テストに合格しなかったことに気づいた場合は、[Diagnostics Tools] の下にあるクイック テスト ログを確認してください。

（注）　診断ツールの詳細については、第 7 章「診断ツール」を参照してください。

サーバ スナップショット処理のログ ファイルには次の情報が含まれます。

- Chassis Summary
- BaseBoard Summary
- CIMC Summary
- Processor Summary
- Memory Summary
- Storage Summary
- PCI Adapter Summary
- Power Supply Summary
- Server diagnostics Quick Test Results
- Server Probe Data

Cisco.com からの更新

cisco.com からの Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[**Cisco.com**] をクリックします。

ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Select Updates] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。

ステップ 2　[Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a. ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定方法の詳細については、「ネットワークの設定」（P.3-5）を参照してください。

b. [User Name] フィールドに、cisco.com のユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。

c. [Password] フィールドに、cisco.com のパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

ステップ 3　表示される [Select Updates] ダイアログボックスで、ISO イメージの必要なバージョンを選択します。

ステップ 4　[**OK**] をクリックします。

ネットワークからの更新

ネットワークから Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[**From Network**] をクリックします。

ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Network Location] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。

ステップ 2　[Network Configuration] ダイアログボックスで、ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワーク設定の詳細については、「ネットワークの設定」（P.3-5）を参照してください。

ステップ 3　表示された [Network Location] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a. [User Name] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのログイン名を入力します。

b. [Password] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのパスワードを入力します。

c. [Network Location] フィールドに、ISO イメージ ファイルが格納されているフォルダのパス名を入力します。

d. [**Connect**] をクリックします。

ファイル ダイアログボックスにイメージの一覧が表示されます。

e. .iso イメージ ファイルを選択します。

f. [**Open**] をクリックします。

選択したファイルが [Network Location] ダイアログボックスのパッケージ名として表示されます。

g. [**OK**] をクリックします。

ハイパーバイザ パーティションの同期

UCS-SCU は、Cisco FlexFlash SD カードをサポートするサーバ上で、SD カード上に RAID 1 ディスクとして設定されるハイパーバイザ仮想ディスクを同期するためのオプションを提供します。この機能は、Cisco FlexFlash SD カードが両方のスロットに装着されている場合にだけ使用できます。UCS-SCU は、サーバ上の SD カードの有無を検出します。

一方のメンバの SD カード スロットが破損している場合に、このオプションを使用して RAID-1 仮想ディスクの 2 つのメンバ間でハイパーバイザ データを同期します。この同期を開始できるのは、2 枚のカードが検出され、RAID-1 が正常でない（一方のメンバが破損）と判断された場合だけです。

ハイパーバイザ仮想ディスクを同期するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ツールバーの [**Hypervisor Sync**] アイコンをクリックします。
ダイアログボックスで、ハイパーバイザ RAID を同期することを確認するよう求められます。

ステップ 2　[Yes] をクリックします。
同期が完了すると、処理の完了を示すダイアログ ボックスが表示されます。

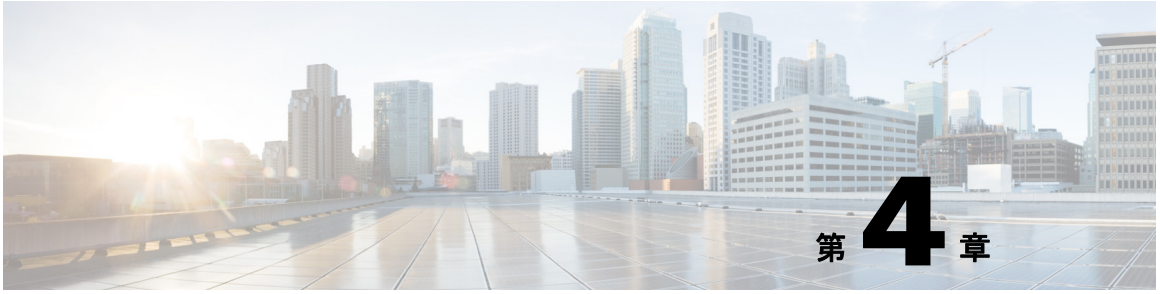
ステップ 3　[OK] をクリックします。
ツールバーの [**Hypervisor Sync**] アイコンはグレーアウトされます。

サーバのリブート

サーバをリブートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ツールバーの [**Reboot**] アイコンをクリックします。
[Reboot] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2　[**Yes**] をクリックしてリブートします。
サーバがリブートし、UCS-SCU GUI が再表示されます。



サーバ インベントリの表示

この章では、サーバ インベントリの表示について説明します。

サーバのインベントリを実行するためにサーバ インベントリ機能を使用できます。サーバの概要、サーバ プロパティに加えて、CPU、メモリ、電源、ファン、IO デバイス、ストレージ、BIOS、CIMC などのサーバ上のサブシステムのインベントリを表示できます。

サーバのインベントリを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 左側のナビゲーション ペインの [**Server Inventory**] タブをクリックします。

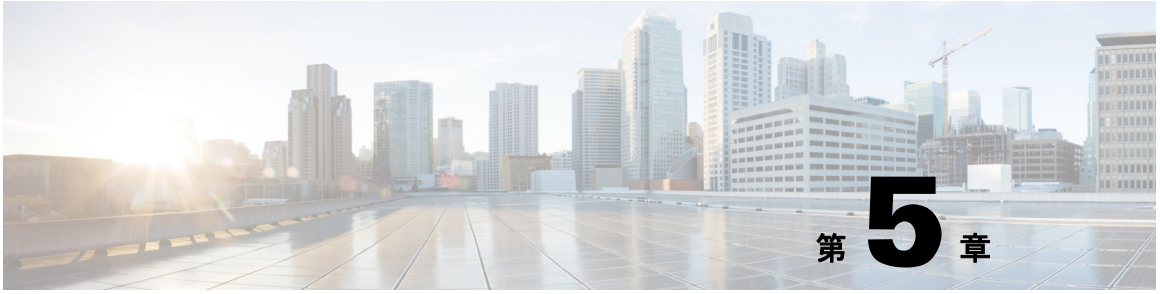
ステップ 2 左側のナビゲーション ペインで [**Server Information**] タブをクリックします。サーバのプロパティとサーバの要約が表示されます。

ステップ 3 CPU、メモリ、電源、ファン、IO デバイス、ストレージ、BIOS、および CIMC などのサーバのサブシステムのインベントリを表示するには、[**Inventory**] タブをクリックします

表 4-1 で、表示できるさまざまなサブシステムの詳細について説明します。

表 4-1 サーバ インベントリのプロパティ

サブシステム	説明
CPU	サーバのソケット名、ステータス、コアの数、スレッド数、ベンダー、バージョン、有効なコア、CPU のシグニチャを表示します。
Memory	サーバの DIMM のサイズ、データの幅、ロケータ、速度、およびシリアル番号を表示します。
Power Supplies	サーバの電源装置の入力電力、出力電力（W）、部品番号、バージョン、シリアル番号、製品名を表示します。
Fans	サーバのファンの状態、電源状態、速度を表示します。
IO Devices	サーバの I/O デバイスのタイプ、ベンダー、説明、MAC アドレス、およびシリアル番号を表示します。
Storage	サーバのストレージ デバイスのタイプ、説明、ベンダー、サイズ、バス情報、およびシリアル番号を表示します。
BIOS	サーバの BIOS のベンダー、バージョン、物理 ID、サイズ、キャパシティ、およびブート順を表示します。
CIMC	サーバの CIMC の IP アドレス、MAC アドレス、ファームウェアバージョン、および IPMI のバージョンを表示します。



サーバ ヘルスの表示

この章では、サーバ ヘルスの表示について説明します。

サーバ ヘルス機能を使用すると、特定のサブシステムのステータスおよびメッセージとともに、サーバのすべてのサブシステム（メモリ、プロセッサ、電源、ハード ディスク、ファン、チップセット、および CIMC など）の状態を表示できます。

サーバの状態を表示するには、次の手順を実行します。

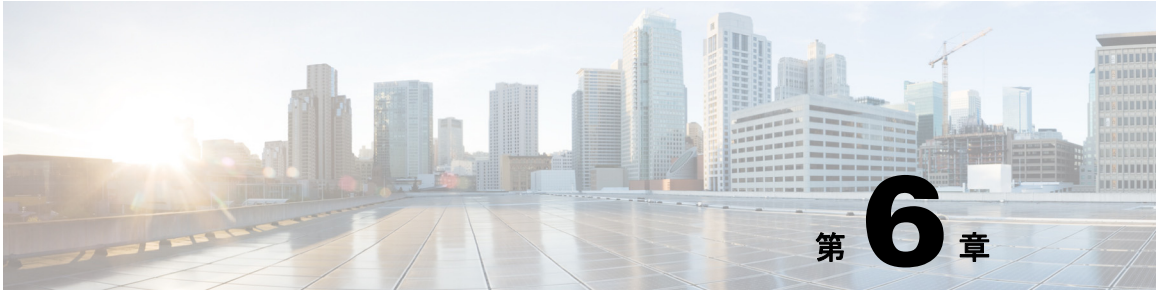
ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで **[Server health]** タブをクリックします。

サーバ ヘルスは、特定のサブシステムのステータスおよびメッセージとともに右側のコンテンツ ペインに表示されます。

ステップ 2 サブシステムの最新のステータスを表示するには、ツールバーの **[Probe Server]** をクリックします。プローブ サーバをクリックした後でページを更新するには、**[Server Health]** をもう一度クリックします。

ステップ 3 [Server Health Details] ペインでサーバ ヘルスの詳細を表示するには、サブシステムに対応する行をクリックします。

（注） サーバ ヘルス ペインのメッセージ カラムに、サブシステムに対応する最初の問題が表示されます。サブシステムに複数の問題がある場合は、[Server Health Details] ペインに表示されます。



オペレーティング システムのインストール

無人のオペレーティング システムのインストール機能は、Microsoft Windows および RedHat Linux オペレーティング システムのインストールに役立ちます。UCS-SCU には、RAID ドライバを含むデバイス ドライバが組み込まれており、追加のドライバ ロード手順や、USB などのデバイスを使用せずに、サポートされる RAID 論理アレイにオペレーティング システムをインストールすることができます。

UCS-SCU は仮想ディスクのみでオペレーティング システムのインストールをサポートします。物理ディスクでのインストールはサポートされていません。UCS-SCU でサポートされているすべてのオペレーティング システムは、Windows、Linux および RHEL という 3 つのグループに分類されます。

（注） オペレーティング システムのインストールを開始する前に、ウォッチドッグ タイマーを無効にしてください。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも小さい期間に設定されていると、オペレーティング システムのインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグ タイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバをリブートするか、電源をオフにします。

オペレーティング システムをインストールするには、次の 2 つの方法があります。

- 「高速インストール」（P.6-1）：デフォルト設定を使用してオペレーティング システムをインストールするには、[Quick Install] オプションを使用します。
- 「カスタム インストール」（P.6-4）：オペレーティング システムをインストールする前にデフォルト設定を変更するには、[Custom Install] オプションを使用します。

高速インストール

[Quick Install] オプションでは、デフォルト パラメータを使用してオペレーティング システムをすばやくインストールできます。ターゲット OS に応じたデフォルト パラメータを示す [OS Install] ページを表示できます。高速インストールはユーザ入力を必要としない方法であり、ワンクリックでオペレーティング システムをインストールする方法です。

OS の高速インストールを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 オペレーティング システムの無人インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで **[OS Install]** をクリックします。

[OS Install] ページが表示されます。

ステップ 2 オペレーティング システムのオプション ボタンのいずれかをクリックします。

ステップ 3　[Operating System] ドロップダウン リストから、オペレーティング システムのバージョンを選択します。

ステップ 4　（Windows の場合）[Edition] ドロップダウン リストから、オペレーティング システムのエディションを選択します。

[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。

表 6-1 に、Windows オペレーティング システムの [Default Settings] 領域に表示されるデフォルト パラメータを示します。

表 6-1　デフォルトのパラメータ（Windows の場合）

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	Central American Standard Time
Name	admin
Organization	Organization
Computer Name	Computer
Network	DHCP
Work Group Name	WORKGROUP
Drivers	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
Firewall	Disabled
RDP	Disabled
Disk Details	
Disk Name	LSI
Disk Size	40 GB 以上
Partition Details	
Drive Letter	C
File System	NTFS
Size (MB)	論理ディスクによって異なります

表 6-2 に、Red Hat Enterprise Linux OS の [Default Settings] 領域に表示されるデフォルト パラメータを示します。

表 6-2　デフォルト パラメータ（Red Hat Enterprise Linux 用）

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	America/New_York
Name	root
Default Password	password
Network	DHCP
Drivers	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
Disk Details	
Disk Name	LSI

表 6-2　デフォルト パラメータ（Red Hat Enterprise Linux 用）（続き）

パラメータ	デフォルト値
Disk Size	論理ディスクによって異なります
Partition Details	
Drive Letter	
File System	ext3
Size (MB)	論理ディスクによって異なります
Drive Letter	
File System	linux-swap
Size (MB)	2048

表 6-3 に、SUSE Linux Enterprise Server（SLES）OS の [Default Settings] 領域に表示されるデフォルト パラメータを示します。

表 6-3　デフォルトのパラメータ（SLES の場合）

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	America/New_York
Name	root
Default Password	password
Network	DHCP
Drivers	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
Disk Details	
Disk Name	LSI0-Logical Vol-2
Disk Size	論理ディスクによって異なります
Partition Details	
Drive Letter	/
File System	ext3
Size (MB)	論理ディスクによって異なります
Drive Letter	swap
File System	linux-swap
Size (MB)	2048 以上

ステップ 5　インストールを完了するために、[**Quick Install**] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。

（注）　オペレーティング システムをインストールする前に論理ディスクが作成されていることを確認します。論理ディスクがない場合、次のようになります。

- ディスクの詳細が [Default Settings] 領域の下に表示されません
- [Quick Install] および [Custom Install] ボタンが表示されません

- 次の警告メッセージが表示されます。

```
OS Installation cannot be done as no logical disks found in the system.Please use RAID
Configuration to create logical disks.
```

カスタム インストール

[Custom Install] オプションでは、デフォルト設定をカスタマイズできます。

（注） パラメータが変更されない場合、カスタム インストールはデフォルト パラメータを使用して実行されます。表 6-1 および表 6-2 に、Windows および Red Hat Enterprise Linux オペレーティング システムのデフォルト パラメータと、SCU ブート メディアからのドライバのダウンロードを示します。

ここでは、次のオペレーティング システムのカスタム インストール手順について説明します。

- 「Windows Server 2008 R2 オペレーティング システムのインストール」（P.6-4）
- 「Linux Server Series オペレーティング システムのインストール」（P.6-10）
- 「SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのインストール」（P.6-12）

Windows Server 2008 R2 オペレーティング システムのインストール

Windows Server オペレーティング システムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　オペレーティング システムの無人インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS Install] をクリックします。[**OS Install**] ページが表示されます。

ステップ 2　[**Windows**] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します。

[Edition] ドロップダウン リストが表示されます。

ステップ 3　[Edition] ドロップダウン リストから、エディションを選択します。

[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。

（注） ドロップダウン リストの [Windows Server 2008 R2] オプションは、Windows Server 2008 R2 と Windows Server 2008 R2 SP1 で同じです。使用するインストール CD に応じて（Win2k8 R2 または Win2k8R2 SP1）、対応する Windows OS バージョンがインストールされます。

ステップ 4　[**Custom Install**] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。

- [Personalization]：パーソナライズ設定を実行するには、「パーソナライズ」（P.6-5）に進みます。

- [Installation Partitions]：インストールのパーティションを設定するには、「インストール パーティション」（P.6-5）に進みます。
- [Network Settings]：ネットワークを設定するには、「ネットワーク設定」（P.6-6）に進みます。
- [Installation Drivers]：ドライバを設定するには、「インストール ドライバ」（P.6-8）に進みます。

ステップ 5　[**Install**] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。UCS-SCU CD を取り出し、必要なオペレーティング システム CD を挿入するように要求する、[OS Install] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 6　オペレーティング システム CD を挿入し、[**Ok**] をクリックします。

システムがリブートし、オペレーティング システムのインストールが開始されます。

パーソナライズ

パーソナライズ設定を行うには、次の手順に従ってください。

ステップ 1　対応するウィンドウを開くには、[**Personalization**] をクリックします。

ステップ 2　[Personalization] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a. [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。

b. [Name] フィールドに、管理者の名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。

c. [Organization] フィールドに、管理者の組織名を入力します。最大文字数は 15 文字です。

d. ライセンスをアクティブ化する必要がある場合は、[License Information] オプション ボタンのうちの 1 つを選択し、25 文字のプロダクト キーを入力します。

e. [Computer Name] フィールドに、サーバの名前を入力します。最大文字数は 15 文字です。

f. [Description] フィールドに、サーバの説明を入力します。最大文字数は 25 文字です。

インストール パーティション

インストール パーティションを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　対応するウィンドウを開くために [**Installation Partitions**] をクリックします。

ステップ 2　[Installation Partitions] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a. [Select Disk] ドロップダウン リストで、論理パーティションを作成するディスクを選択します。

b. 対応するパーティションの詳細を表示するためにディスクの名前をクリックします。

ディスク エントリが展開され、パーティション名、ドライブ文字、ファイル システム、使用されている領域（MB 単位）が表示されます。

c. パーティションを編集するには、次の手順を実行します。

- 編集するパーティションを選択し、[**Edit**] をクリックします。

[Edit Partition] ダイアログ ボックスが表示されます。

- [Edit Partition] ダイアログボックスで、次を実行します。
  - [Drive Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
  - [Size] テキスト フィールドに、パーティション サイズを入力します。

  （注）　サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。

  - [File system] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
  - [**OK**] をクリックして変更を保存します。

d. 新しいパーティションを作成するには、次を実行します。

- 空き領域を選択し、[**New**] をクリックします。

  [Create Partition] ダイアログボックスが表示されます。
- [Create Partition] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
  - [Driver Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
  - [Size] フィールドで、ディスク サイズを編集します。

  （注）　サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。

  - [File System] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
  - [**OK**] をクリックします。

e. パーティションを削除するには、次の手順を実行します。

- 削除するパーティションを選択し、[**Delete**] をクリックします。

  [OS Install] ダイアログボックスが表示されます。
- パーティションを削除する場合は [**Yes**] をクリックします。

（注）　Red Hat Enterprise Linux では、ルートおよびスワップ パーティションが必要です。パーティション作成プロセス中でサイズを指定しないと、UCS-SCU はアラート メッセージを生成して、別のパーティション設定を推奨します。Linux のパーティションについて習熟していない場合は、これを受け入れます。

ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティング システムによって検出されるオンボード ネットワーク アダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、CIMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティング システムと CIMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワーク アダプタがネットワーク インターフェイス カラムに一覧表示されます。使用するオペレーティング システムによって、オペレーティング システムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

ステップ 1　[**Network Settings**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

ステップ 2　[Network Mapping] ウィンドウで、次を実行します。

a. [Work Group] または [Network Domain] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。

- ネットワークまたはドメインを追加する必要がない場合は、[**No network**] または [**No domain**] オプション ボタンを選択します。[Work Group Name] フィールドにワーク グループ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
- [**Join this Domain**] オプション ボタンを選択し、次を実行します。
  - [Domain Name] テキスト フィールドに、ドメインの名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
  - [Domain Username] に、ドメインのユーザ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
  - ドメイン パスワードで、ドメインのパスワードを入力します。最大文字数は 20 文字です。

b. リモート アクセス設定の [**Enable Remote Access (RDP)**] オプション ボタンを選択または選択解除します。

c. ファイアウォール設定の [**Disable Firewall**] オプション ボタンを選択または選択解除します。

d. [DNS Suffix/Domain] フィールドに、ドメインの DNS サフィックスを指定します。最大文字数は 25 文字です。

e. [DNS Suffix Search Order 1] フィールドに、DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。

f. [DNS Suffix Search Order 2] フィールドに、もう 1 つの DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。

g. [Proxy Address] フィールドに、プロキシ サーバの IP アドレスまたは名前を入力します。最大文字数は 30 文字です。

h. [Port] フィールドに、プロキシ サーバのポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。

i. 次の操作を実行して、ネットワーク設定を編集します。

- ネットワーク インターフェイスを選択し、[**Edit**] をクリックします。

  [Network Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
  - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
  - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
  - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
  - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
  - [**OK**] をクリックします。

インストール ドライバ

UCS-SCU は、ドライバのソースからダウンロードされる使用可能なすべてのドライバを表示します。インストールしないドライバを選択解除します。RAID ボリュームにオペレーティング システムをインストールする場合は、適切な RAID コントローラ用のドライバを選択します。

インストール ドライバを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[**Installation Drivers**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2　[Choose Drivers to Install] テーブルから、インストールするドライバを選択します。

ドライバが [Choose Drivers to Install] テーブルにない場合は、[Installation Drivers] ツールバーを使用してドライバをダウンロードします。ドライバをダウンロードするには、次のいずれかのオプションを選択します。

- 「Cisco.com からのダウンロード」（P.6-8）
- 「SCU ブート メディアからのダウンロード」（P.6-9）
- 「ネットワーク共有からのダウンロード」（P.6-9）
- 「USB からのダウンロード」（P.6-10）

Cisco.com からのダウンロード

Cisco サポート Web サイトから最新のドライバをダウンロードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ツールバーの [**From Cisco.com**] をクリックします。

（注）　ダウンロード中に、サーバが 1 つのネットワークだけに接続されていることを確認します。

ネットワークが設定されていない場合や、ユーザの資格情報が入力されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークが設定されている場合や、ユーザの資格情報が入力されている場合は、[Select Device Packages] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。

ステップ 2　[Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a.　ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。設定のネットワークについての詳細については、「ネットワークの設定」（P.3-5）を参照してください。

b.　[User Name] フィールドに、cisco.com のユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。

c.　[Password] フィールドに、cisco.com のパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

ステップ 3　[Select Device Packages] ダイアログ ボックスで、必要なドライバ パッケージを選択し、[**OK**] をクリックします。

進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。

SCU ブート メディアからのダウンロード

Tools and Drivers CD に格納されているドライバ パッケージを直接使用するには、この手順を実行します。

ステップ 1　ツールバーの [**From SCU Boot media**] をクリックします。

進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。

（注）　UCS-SCU はデフォルトでこのオプションを選択します。

ネットワーク共有からのダウンロード

ネットワーク共有フォルダに格納されているドライバ パッケージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ツールバーの [**From Network Share**] をクリックします。

ネットワークが設定されていない場合や、ユーザの資格情報が入力されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークが設定されている場合や、ユーザの資格情報が入力されている場合は、[Network Location] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。

ステップ 2　[Network Configuration] ダイアログボックスで、ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定方法の詳細については、「ネットワークの設定」（P.3-5）を参照してください。

ステップ 3　表示された [Network Location] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a. [User Name] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのログイン名を入力します。

b. [Password] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのパスワードを入力します。

c. [Network Location] フィールドに、ドライバが格納されている zip フォルダのパス名を入力します。

d. [**Connect**] をクリックします。

ファイル ダイアログボックスに、ドライバが格納されている zip フォルダの一覧が表示されます。

e. zip ファイルを選択します。

f. [**Open**] をクリックします。

選択した zip ファイルが [Network Location] ダイアログボックスのパッケージ名として表示されます。

g. [**OK**] をクリックします。

進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。

USB からのダウンロード

USB キーまたは USB ハード ドライブに保存されているドライバをダウンロードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ツールバーの [**From USB**] をクリックします。

ファイル ダイアログボックスに USB のフォルダの一覧が表示されます。

ステップ 2　ドライバが格納された zip ファイルを参照します。

ステップ 3　[**OK**] をクリックします。

進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。

Linux Server Series オペレーティング システムのインストール

Linux オペレーティング システムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　無人オペレーティング システム インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [**OS Install**] をクリックします。

[OS Install] ページが表示されます。

ステップ 2　[**RHEL**] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します

[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。

ステップ 3　[**Custom Install**] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。

- [Basic Configuration]：パーソナライズ設定を実行するには、「基本設定」（P.6-11）に進みます。
- [Installation Partitions]：インストールのパーティションを設定するには、「インストール パーティション」（P.6-5）に進みます。
- [Package Selection]：パッケージの選択を設定するには、「パッケージの選択」（P.6-11）に進みます。
- [Network Settings]：ネットワークを設定するには、「ネットワーク設定」（P.6-11）に進みます。
- [Installation Drivers]：ドライバを設定するには、「インストール ドライバ」（P.6-8）に進みます。

ステップ 4　[**Install**] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5　[**OK**] をクリックします。

ステップ 6　UCS-SCU メディアを取り出し、必要なオペレーティング システム CD を挿入します。

基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[**Basic Configuration**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2　[Basic Configuration] ウィンドウで、次を実行します。

a. [Root Password] フィールドに、ルート パスワードを入力します。
b. [Confirm Root Password] フィールドに、ルート パスワードを再入力します。
c. [Default Language] ドロップダウン リストから、デフォルトの言語を選択します。
d. [Keyboard] ドロップダウン リストから、キーボード レイアウトのタイプを選択します。
e. [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。
f. [Additional Languages] リストで、該当するすべての言語を選択します。

パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[**Package Selection**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2　該当するチェックボックスをすべてオンにします。

ネットワーク設定

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

ステップ 1　[**Network Settings**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

ステップ 2　ネットワーク設定を編集するには、次を実行します。

a. ネットワーク インターフェイスを選択し、[**Edit**] をクリックします。

   [Network Settings] ダイアログ ボックスが表示されます。

b. [System Settings] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

- [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
  - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
  - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
  - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
  - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
- [**OK**] をクリックします。

SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのインストール

SLES オペレーティング システムの無人インストールを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　オペレーティング システムの無人インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [**OS Install**] をクリックします。

[OS Install] ページが表示されます。

ステップ 2　[**SLES**] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します.

[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。

ステップ 3　[**Custom Install**] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。

- [Basic Configuration]：パーソナライズ設定を実行するには、「基本設定」（P.6-11）に進みます。
- [Installation Partitions]：インストールのパーティションを設定するには、「インストール パーティション」（P.6-5）に進みます。
- [Package Selection]：パッケージの選択を設定するには、「パッケージの選択」（P.6-11）に進みます。
- [Network Settings]：ネットワークを設定するには、「ネットワーク設定」（P.6-11）に進みます。
- [Installation Drivers]：ドライバを設定するには、「インストール ドライバ」（P.6-8）に進みます。

ステップ 4　[**Install**] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5　[**OK**] をクリックします。

ステップ 6　UCS-SCU メディアを取り出し、必要なオペレーティング システム CD を挿入します。

基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[**Basic Configuration**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2　[Basic Configuration] ウィンドウで、次を実行します。

- [Root Password] フィールドに、ルート パスワードを入力します。
- [Confirm Root Password] に、ルート パスワードを再入力します。
- [Default Language] ドロップダウン リストから、デフォルトの言語を選択します。
- [Keyboard] ドロップダウン リストから、キーボード レイアウトのタイプを選択します。
- [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。

パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[**Package Selection**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2　該当するチェックボックスをすべてオンにします。

ネットワーク設定

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

ステップ 1　[**Network Settings**] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

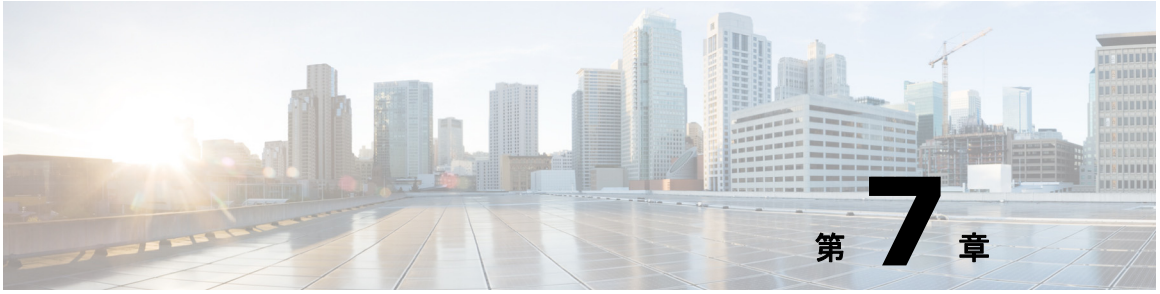
ステップ 2　ネットワーク設定を編集するには、次を実行します。

a. ネットワーク インターフェイスを選択し、[**Edit**] をクリックします。

[Network Settings] ダイアログボックスが表示されます。

b. [System Settings] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

- [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
  - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します
  - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
  - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
  - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
- [**OK**] をクリックします。



診断ツール

Cisco サーバのハードウェア上の問題を診断するには、診断ツールを使用できます。ユーザ インターフェイスはテスト実行のステータスを表示し、ハードウェアの問題を解決するためにログ ファイルを検査します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「診断ツールの機能」（P.7-1）
- 「診断ツールの使用」（P.7-2）

診断ツールの機能

診断ツールを使用して次のことが可能です。

- さまざまなサーバ コンポーネントに対してテストを実行し、ハードウェアの問題を見つけたり、テスト結果を表形式で分析する。
- 使用可能なテストを閲覧することなく、クイック タスク機能を使用してすべてのテストを実行する。
- いくつかのテストを並行して実行すると、他のテストに干渉する可能性があるため、逐次テストを実行する。
- デフォルトとは異なる別の引数値を入力して、テストを設定する。
- テスト スイート機能を使用して、実行するテストを選択する。
- 外部 USB フラッシュ ドライブに、SEL ログなどのすべてのテスト ログを保存する。
- サーバの現在の状態を調べ、ハードウェアの問題を表示する。

表 7-1 で、特定の診断機能を使用すべき場合について説明します。

表 7-1　　診断の使用

診断コンポーネント	機能
クイック テスト	所定の期間内のサブシステムのステータスをすばやく確認する場合は、このテストを使用します。クイック テストでテストできるコンポーネントは、プロセッサ、キャッシュ、メモリ、ディスク、ビデオ、ネットワーク、QPI、CIMC、RAID およびチップセットです。
包括的テスト	サブシステムを詳細にテストする場合は、このテストを使用します。これらのテストは、サブシステムに負荷を加え、エラーを報告するように設計されています。実行できるテストは、プロセッサ、メモリ、QPI、ディスク、および NUMA です。
クイック タスク	包括的テストとクイック テストの両方が統合されたテストを実行できます。クイック タスクを使用して、両方の種類のテストを実行できます。
テスト スイート	クイック テストと包括的テストで使用可能なすべてのテストは、ここで使用できます。テスト スイートでは、必要な数のテストを選択し（チェックボックスを使用）、これらを同時に実行できます。
テスト ログの概要	実行したすべてのテストのログ、エラー ログ、分析を表示するには、テスト ログの概要を使用します。ログをソートするため、4 つのフィルタを使用できます。
テストの要約	左側のナビゲーションのこのテーブルは、実行したテストの結果を、合格したテスト、キューに格納されているテスト、不合格だったテストの形式で表示します。

診断ツールの使用

ここでは、診断ツール コンポーネントを使用する手順について説明します。内容は次のとおりです。

- 「クイック テスト」（P.7-3）
- 「包括的テスト」（P.7-4）
- 「クイック タスク」（P.7-5）
- 「テスト スイート」（P.7-5）
- 「テスト ログの概要」（P.7-5）
- 「非インタラクティブ オフライン診断」（P.7-6）

クイック テスト

ハードウェアの問題を特定するために、これらのテストをすばやく実行できます。これらのテストは、通常 20 ～ 30 分かかり、少数のサブシステムの限定された機能をテストします。包括的なテストでは、より網羅的な診断を行います。

クイック テストを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　左側のナビゲーション ペインから **[Diagnostic Tools]** をクリックします。

ステップ 2　**[Tests]** をクリックします。

ステップ 3　**[Quick Test]** 折りたたみボタンをクリックし、実行可能なクイック テストの種類を表示します。

ステップ 4　サブシステム（メモリ、ビデオ、ネットワークなど）をクリックします。

ステップ 5　コンテンツ ペインで **[Run Test]** をクリックします。

テストが実行され、ステータスが **[Tests Status]** 領域に表示されます。

表 7-2 で、クイック テストで網羅されるサブシステムについて説明します。

表 7-2　クイック テスト

Test	説明
Processor Test	プロセッサ固有のテストを実行します。このテストは、使用可能なすべてのコアで演算と浮動小数点操作を実行します。また、テスト期間を指定できます。
Cache Test	CPU キャッシュを調べるためのテストを実行し、訂正可能および訂正不可能なキャッシュ エラーを確認します。
Memory Test	DIMM およびメモリ コントローラをテストします。
Disk Test	各ディスクをブロック単位で読み込むことで、システムで使用可能なディスクをテストします。
Video Test	ビデオ メモリに負荷を与えるテストを実行します。
Network Test	内部ループバック テスト、レジスタ テスト、Electrically Erasable Programmable Read Only Memory（EEPROM）テスト、および割り込みテストを実行して、使用できるネットワーク インターフェイスをテストします。
QPI Test	高速パス相互接続のファブリックをテストします。
CIMC Test	IPMI インターフェイスを介して CIMC のセルフ テストを実行し、SEL の十分性を確認します。
Chipset Test	チップセットを確認するためのテストを実行し、チップセットの RAS レジスタにエラーが記録されないかどうかを確認します。
RAID Adapter Test	LSI MegaRAID 9361-8i コントローラとバッテリ バックアップ ユニットの診断を検査するテストを実行します。

包括的テスト

包括的テストは、何時間も実行され、クイック テストでサーバの問題を診断できない場合に実行されます。このテストは、複数のハードウェア コンポーネントをテストし、サーバの複数のコンポーネントが原因で発生する可能性のある問題を検出するように設計されています。

個々のテストはユーザ定義の条件をテストするようにカスタマイズできます。一群のテストを実行することもできます。

包括的テストを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　左側のナビゲーション ペインから [**Diagnostic Tools**] をクリックします。

ステップ 2　[**Tests**] をクリックします。

ステップ 3　[**Comprehensive Test**] 折りたたみボタンをクリックし、実行可能な包括的テストの種類を表示します。

ステップ 4　サブシステム（プロセッサ、メモリ、またはネットワークなど）をクリックします。

ステップ 5　コンテンツ ペインで、[**Run Tests**] をクリックします。

テストが実行され、ステータスが [**Tests Status**] 領域に表示されます。

表 7-3 で、包括的テストで網羅されるサブシステムについて説明します。

表 7-3　包括的テスト

Test	説明
Processor Stress Test	システムの CPU およびメモリに最大負荷を課します。このテストを実行する時間（分）を設定できます。
Memory Pattern Test	メモリにさまざまなパターンを書き込んで読み込み、使用できる空きメモリをテストします。
QPI Stress Test	NUMA ノード間のトラフィックを生成し、QPI 相互接続に負荷を与えるためのテストを事項します。
Smart Disk Test	各ディスクをブロック単位で読み込むことで、システムで使用可能なディスクをテストします。
NUMA Test	NUMA のメモリ アクセス パターンに負荷を与え、エラーがないかどうかを確認するためのテストを実行します。
VDisk Stress Test	システムの仮想ディスクに負荷を与えるテストを実行します。仮想ディスクのサイズによっては、このテストは長時間実行されます。

クイック タスク

クイック タスクでは、診断ツールをただちに開始することができます。ここからすべてのテスト（クイックおよび包括的）を実行して、シスコに詳細を報告し、ログをトラブルシューティングしたり、システムの問題に関する情報を提供することができます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　左側のナビゲーション ペインから [**Diagnostic Tools**] をクリックします。

ステップ 2　[**Quick Tasks**] をクリックします。

ステップ 3　ツールバーから [**Run Quick Tests**] または [**Run Comprehensive Test**] を選択します。

ステータスは、[Test Status] ペインに表示されます。また、[Tests log summary] で詳細なテスト結果を参照できます。

テスト スイート

テスト スイートを使用すると、クイック テストと包括テストを一括して実行することができます。使用可能なさまざまなテストが、テストの種類、テストの説明とともに一覧表示されます。リストから実行する任意の数のテストを選択し、[Tests Status] カラムでテストの結果を参照できます。

テスト スイートを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　左側のナビゲーション ペインから [**Tests Suite**] をクリックします

ステップ 2　必要なチェックボックスをクリックして実行するテストを選択します。

ステップ 3　[**Run Tests Suite**] をクリックし、テスト スイートに追加したテストを実行します。

ステータスは、名前、スイート ID、結果、開始時刻および終了時刻とともに、[Tests Status] ペインに表示されます。また、テスト ログの概要を表示して、テスト スイート中のテストの実行ステータスを参照できます。

テスト ログの概要

トラブルシューティング用にテスト ログを調べる場合に、テスト ログの概要機能を使用します。テストログの概要を表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　左側のナビゲーション ペインで [**Diagnostic Tools**] をクリックします。

ステップ 2　左側のナビゲーション ペインで [**Tests Log Summary**] をクリックします。

ステップ 3　フィルタ ドロップダウンからフィルタを選択し、[**Go**] をクリックします。テストのステータス、結果、開始時刻と終了時刻が表示されます。

ステップ 4　詳細については、特定のログ エントリをクリックします（たとえば、[**memory test**] をクリックします）。

ログ、エラー ログ（テストに失敗した場合）、特定のテストの分析がコンテンツ ペインに表示されます。

テストの要約

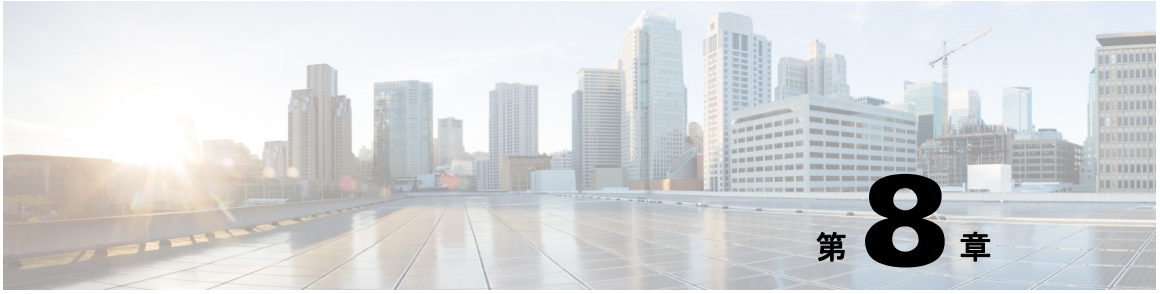
左のナビゲーション領域の [Test Summary] テーブルには、合格したテスト、キュー内のテスト、および不合格だったテストの要約が表示されます。

非インタラクティブ オフライン診断

CIMC バージョン 1.5(2) 以降の Cisco UCS C-series サーバは、XMLAPI インターフェイスを使用して、手動による介入なしでサーバ スナップショットの実行をサポートします。XMLAPI クライアントを使用して C-Series サーバでサーバ スナップショット処理を実行し、SFTP または SCP のいずれかを無人で使用して、サーバ スナップショットの出力結果を別のマシン（Windows または UNIX）にコピーできます。非インタラクティブ オフライン診断は、複数の C-series サーバで同時に実行でき、ログをリモート サーバに自動的にアーカイブできます。

XML API の使用の詳細については、次の URL にある『*Cisco UCS Rack-Mount Servers CIMC XML API Programmer's Guide*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/sw/api/b_cimc_api_book.html



ブート順と RAID レベルの設定

サーバ設定機能を使用して、サーバ BIOS のブート順の設定と RAID 設定を設定できます。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「ブート順の設定」（P.8-1）
- 「RAID 設定」（P.8-2）

ブート順の設定

UCS-SCU は、サーバのすべてのブート可能デバイスのリストを表示します。

サーバの BIOS ブート順を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで、[**Server Configuration**] をクリックし、[**Boot order Configuration**] をクリックします。[Device Types and Boot Order] カラム間で矢印キーを使用して、ブート順の設定に参加させるデバイスを選択できます。

ステップ 2 [Device Types] カラムのデバイスを強調表示し（[HDD]、[CD/DVD]、[Internal EFI Shell]、[Network Devices]、または [FDD] から選択します）、左から右の矢印キーをクリックして希望のサーバ ブート順を配置して、[**Apply**] をクリックします。

ステップ 3 [**Apply**] をクリックします。

ブート順は、サーバに保存されます。

ステップ 4 [**Reset**] をクリックして、ブート順序をリセットします。

（注） システムで、各コンポーネントの下に複数のブート デバイスがある場合（たとえば、システムの同じコントローラや CD ドライブの下に複数のブート可能なハード ディスクがある場合）、SCU はこの情報を表示しません。BIOS を入力し、これらのサブコンポーネントの順序を手動で設定する必要があります。

RAID 設定

RAID 設定機能を使用して、オンボードまたは PCIe でサポートされる RAID コントローラ カードを設定できます。

システムに複数の RAID コントローラがある場合、UCS-SCU は、[RAID Configuration] ページに、すべての使用可能な RAID カードと、物理および論理ディスクのリストを表示します。

次の RAID 設定オプションを使用できます。

- 冗長性を伴う自動セットアップ
- 冗長性を伴わない自動セットアップ
- 単一の RAID レベル：RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 6
- ネストされた RAID レベル：RAID 10、RAID 50、および RAID 60

ここでは、次の内容について説明します。

- 「RAID 設定ページのコンポーネント」（P.8-2）
- 「RAID アレイの設定」（P.8-4）
- 「RAID アレイのクリア」（P.8-8）

RAID 設定ページのコンポーネント

ここでは、RAID 設定ページについて説明します。内容は次のとおりです。

- 「物理ディスク テーブル」（P.8-2）
- 「論理ディスク テーブル」（P.8-3）

物理ディスク テーブル

[RAID Configuration] ページの [Physical Disks] テーブルには、次の内容が一覧表示されます。

- [ID]：物理ディスクの識別番号。
- [Slot]：物理ディスクが属するスロット。
- [State]：ディスクのステータス。さまざまなディスク状態の詳細については、表 8-1を参照してください。
- [Size]：物理ディスクのサイズ。
- [Device Speed]：コントローラのディスク アクセス速度。
- [Link Speed]：コントローラのリンク速度。
- [Logical Disk]：物理ディスクが属する論理ディスク。

表 8-1 で、まざまなディスク ステータス状態について説明します。

表 8-1　　ディスク ステータス状態

ステータス状態	説明
Online	ドライブが別のアレイですでに使用されています。
Global Hotspare	障害が発生したドライブが、ホット スペア ドライブの容量以下である場合に、ドライブ障害があるシステム内のアレイを修復するために使用されます。

表 8-1　ディスク ステータス状態 （続き）

ステータス状態	説明
Unconfigured Good	ドライブは未使用または使用可能です。
Ready	ドライブはオンラインで、正しく動作しています。
Offline	ドライブはオフラインまたは存在しません。ドライブがオンラインになるまで、ドライブに対する操作は実行できません。
Unconfigured Bad	ドライブが動作しておらず、交換する必要があります。 ステータスが「Unconfigured bad」のディスクは、RAID 設定で使用できません。
Foreign	ドライブが、他のコントローラで作成されたアレイか、あるエンクロージャ内で作成され、同じコントローラの別のエンクロージャに移動されたアレイに属しています。設定を削除した後、新しいアレイの作成に使用できます。

論理ディスク テーブル

[RAID Configuration] ページの論理ディスク ペインには、論理ディスクに関する情報が表示されます。

表 8-2 で、RAID アレイの属性について説明します。

表 8-2　RAID アレイの属性

オプション	説明
ID	論理ディスクの一意の ID。
Size	論理ドライブのサイズ。最大値は、選択した RAID レベルと、関係する物理ディスクのサイズによって異なります。
Primary RAID level	RAID 0（データ ストライピング）、1（ディスク ミラーリング）、5（パリティをストライプしたデータ ストライピング）、6（分散パリティとディスク ストライピング）。
Secondary RAID level	ネストされた RAID レベルのみに適用されます。
Stripe size	すべてのディスクのデータ ストライプのサイズ。各物理ディスクのデータ ストライプはこれよりも小さくなります。すべてのストライプの合計がストライプのサイズになります。
Read policy	No Read Ahead、Read Ahead、Adaptive。Read Ahead では、追加で連続するストライプを読み込みます。Adaptive では、シーケンシャルな読み込みに対して Read Ahead が有効になり、ランダムな読み込みに対して無効になります。
Write policy	Write Through または Write Back。Write Through では、データがディスクに書き込まれるときに、書き込み操作の I/O 完了が通知されます。Write Back では、データがキャッシュに転送されるときに、I/O 完了が通知されます。
Cache policy	Direct I/O または Cached I/O。確認なしの読み書き操作を行う場合は Direct I/O を選択します。すべての書き込み操作をキャッシュし、読み込み操作について最初にキャッシュを確認するには、[Cached I/O] を選択します。

RAID アレイの設定

未設定の正常なディスクのみを RAID 設定に使用できます。すでに RAID の一部になっているディスクは RAID 設定に使用できません。

カスタムまたは複数の RAID アレイを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　左側のナビゲーション ペインで、[**Server Configuration**] をクリックし、[RAID configuration] をクリックします。

[RAID Configuration] ページに、物理ディスクおよび論理ディスクのリストが表示されます。

ステップ 2　ページの右上にある [**Configure RAID**] アイコンをクリックします。

[RAID Configuration] ページが表示されます。

ステップ 3　[RAID level] ドロップダウン リストから、次の RAID レベルの 1 つを選択します。

- 「冗長性を伴わない自動セットアップ」（P.8-5）
- 「冗長性を伴う自動セットアップ」（P.8-5）

（注）　冗長性の有無に関係なく、自動セットアップは、すべての既存の RAID アレイを上書きします。

- 「Single-Level RAID の設定」（P.8-6）
- 「ネストされた RAID の設定」（P.8-7）

ステップ 4　[**Create Array**] をクリックします。

（注）　[Create Array] ボタンは、最低限必要な数のドライブ グループが作成されているときにだけ有効です。

経過表示バーが表示され、RAID 設定の完了を示す [RAID Configuration] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5　[**OK**] をクリックします。

[RAID Configuration] ページが表示されます。次の内容を表示できます。

- ドライブ グループ情報は、[Logical Disks] テーブルに表示されます。
- 物理ディスク情報は、[Physical Disks] テーブルに表示されます。
- ドライブ グループに属する物理ディスクのステータスが Online に変わり、バックアップ物理ディスクのステータスが Hot spare に変わります。

冗長性を伴わない自動セットアップ

冗長性を伴わない自動セットアップでは、1 つ以上のハード ドライブが必要です。UCS-SCU はこのオプションで RAID 0 を作成します。

表 8-3 に、冗長性を伴わない自動セットアップで表示されるデフォルト値を示します。

表 8-3　　冗長性を伴わない自動セットアップのデフォルト値

パラメータ（Parameters）	値
Controller	MegaRAID SAS <*family*>
RAID Level	0
Stripe Size	64
Read Policy	No Read Ahead
Writer Policy	Write Back
Cache Policy	Direct IO
Size (MB)	物理ディスクのサイズによって異なります

（注） 共通パラメータは、合計サイズを除き、コントローラのデフォルト値です。

冗長性を伴う自動セットアップ

冗長性を伴う自動セットアップは、デフォルトの RAID 設定のオプションです。この設定では、少なくとも 2 台の物理ドライブが使用可能である必要があります。2 台の物理ディスクが使用できない場合、デフォルトの RAID 設定は、冗長性を伴わない自動セットアップになります。

表 8-4 に、表示されるデフォルト値を示します。

表 8-4　　冗長性を伴う自動セットアップのデフォルト値

パラメータ（Parameters）	値
Controller	MegaRAID SAS <*family*>
RAID Level	1
Stripe Size	64
Read Policy	No Read Ahead
Writer Policy	Write Back
Cache Policy	Direct IO
Size (MB)	論理ディスクのサイズによって異なります

（注） 共通パラメータは、合計サイズを除き、コントローラのデフォルト値です。

Single-Level RAID の設定

Single-Level RAID を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[RAID] ドロップダウン リストから、RAID レベルを選択します（**0**、**1**、**5**、**6** のいずれか）。

[Drive Groups] ペインでは、物理ディスクおよびドライブ グループのリストが表示されます。物理ディスクの詳細を表示するには、ツールチップが表示されるまで、物理ディスクの上にカーソルを合わせます

ステップ 2　[Physical Disks] リストから、[Drive Groups] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 8-5 に、RAID レベルごとに必要な物理ディスクの最小数を示します。

表 8-5　必要な物理ドライブの最小数

RAID Level	必要な物理ディスクの数
RAID 0	1
RAID 1	2
RAID 5	3
RAID 6	4

ステップ 3　[**Create Drive Group**] をクリックします。

（注）　[Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。

（注）　[Delete Drive Group] ボタンは、ドライブ グループが作成されるまで無効なままになります。

ステップ 4　[Physical Disks] リストから、ホット スペア ドライブまたはスタンバイ ドライブとして使用するドライブを選択します。

ステップ 5　[Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。

ステップ 6　[Read Policy] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。

ステップ 7　[Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。

ステップ 8　[Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。

ステップ 9　[Size (MB)] テキスト フィールドに、MB 単位で論理ディスクのサイズを入力します。

ネストされた RAID の設定

ネストされた RAID レベルには、プライマリとセカンダリの RAID レベルがあります。ネストされた RAID レベルには 2 つ以上のドライブ グループを作成する必要があり、各ドライブ グループには同じ数の物理ディスクが必要です。

ネストされた RAID レベルを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　RAID ドロップダウン リストから、ネストされた RAID レベルを選択します。

[Drive Groups] ペインでは、物理ディスクおよびドライブ グループのリストが表示されます。物理ディスクの詳細を表示するには、ツールチップが表示されるまで、物理ディスクの上にカーソルを合わせます

ステップ 2　[Physical Disks] リストから、[Drive Groups] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 8-6 に、必要な物理ディスクおよびデータ グループの最小数を表示します。

表 8-6　必要な物理ドライブおよびデータ グループの最小数

RAID Level	物理ディスクの最小数	データ グループの最小数
RAID 10	4	2
RAID 50	6	2
RAID 60	8	2

ステップ 3　[**Create Drive Group**] をクリックします。

（注）　[Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。

（注）　[Delete Drive Group] ボタンは、ドライブ グループが作成されるまで無効なままになります。

ステップ 4　[Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。

ステップ 5　[Read Policy] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。

ステップ 6　[Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。

ステップ 7　[Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。

ステップ 8　[Size (MB)] テキスト フィールドに、MB 単位で論理ディスクのサイズを入力します。

RAID アレイのクリア

RAID 設定ページを使用して、作成したすべての仮想ディスクまたは特定のディスクを削除してディスク領域を解放できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「すべての仮想ディスクの削除」（P.8-8）
- 「単一または複数ディスクの削除」（P.8-8）

すべての仮想ディスクの削除

すべてのディスクを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　左側のナビゲーション ペインで、[**Server Configuration**] をクリックし、[RAID configuration] をクリックします。

[RAID Configuration] ページに、物理ディスクおよび論理ディスクのリストが表示されます。

ステップ 2　ページの右上にある [**Clear Configuration**] アイコンをクリックします。

[RAID Configuration] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3　操作を確定するには、[**Yes**] をクリックします。

論理ディスクの下のすべての仮想ディスクがクリアされ、ハード ディスクの状態が Unconfigured Good に変わります。

単一または複数ディスクの削除

単一の RAID レベルおよびネストされた RAID レベルでは、未設定の正常な物理ディスクの数が選択された RAID レベルに必要な最小数よりも少ない場合、[RAID Configuration] ダイアログボックスが表示され、物理ディスクを解放するために論理ディスクを削除する必要があることが示されます。

論理ディスクを削除するには、次の手順を実行します。

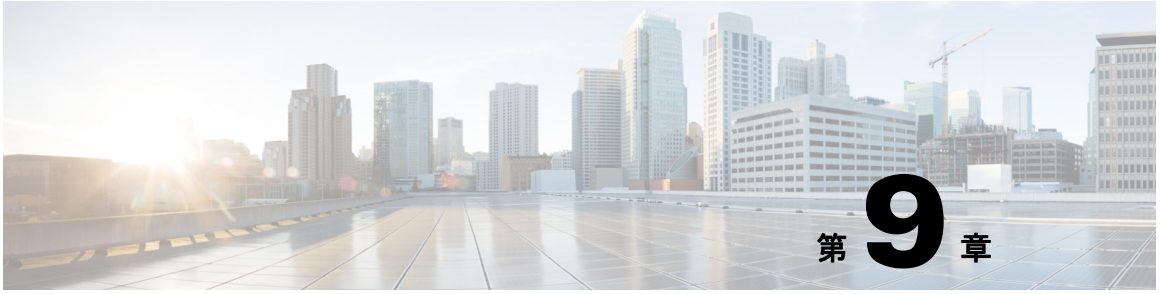
ステップ 1　表示される [RAID Configuration] ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。

[Delete Logical Disks] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2　削除する論理ディスクを選択します。論理ディスクに属する物理ディスクがダイアログボックスの下部に表示されます。

（注）　論理ディスクを削除すると、ディスクに保存されているすべての情報にアクセスできなくなります。

ステップ 3　[**Delete**] をクリックします。



ログの表示

UCS-SCU のログ機能を使用してサーバ ログを調査し、修正処理を実施できます。UCS-SCU は、次の種類のログを提供します。

- 「システム ログ」（P.9-1）
- 「System Event Log」（P.9-1）

システム ログ

システム ログ ファイルには、オペレーティング システム コンポーネントによって記録されたイベントが表示されます。これらのイベントは、多くの場合、オペレーティング システム自体によって事前に決定されています。システム ログ ファイルは、デバイスの変更、デバイス ドライバ、システム変更、イベント、操作などに関する情報を表示します。

システム ログを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで **[Logs]** をクリックします。

ステップ 2 **[System Logs]** をクリックします。

ステップ 3 フィルタ ドロップダウン リストからフィルタを選択します。

ステップ 4 **[Go]** をクリックします。

システム ログが表示されます。

System Event Log

システム イベント ログ ファイルには、サーバによって記録されたイベントが表示されます。

システム イベント ログを表示するには、次の手順を実行します。

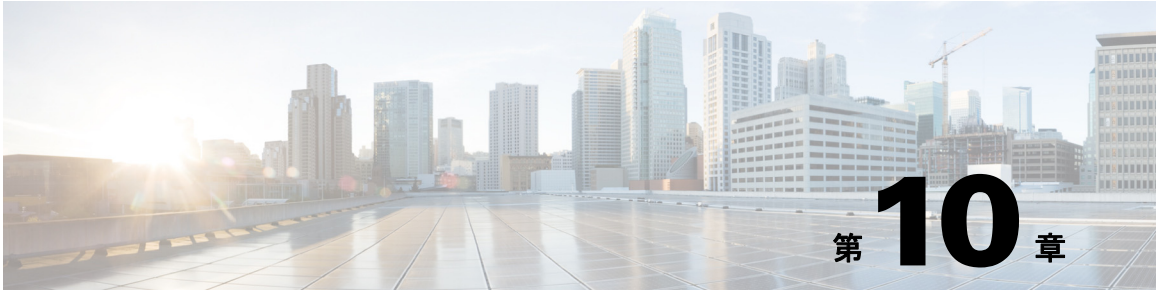
ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで **[Logs]** をクリックします。

ステップ 2 **[System Event Log]** をクリックします。

ステップ 3 ドロップダウン リストから、**[Description]** または **[Severity]** フィルタを選択します。

- **[Description]** フィルタを選択して **[Go]** をクリックすると、説明と重大度を含むすべてのシステム イベント ログが表示されます。

- [**Severity**] フィルタを選択した場合は、2 番目のドロップダウン リストから重大度のタイプを選択し、[**Go**] をクリックできます。指定された重大度のタイプのログを示すリストが表示されます。
- 適用したフィルタをクリアするには、[**Clear Filter**] をクリックします。



トラブルシューティング

この章では、UCS-SCU アプリケーションの使用時に利用可能なさまざまなトラブルシューティング オプションを示します。

UCS-SCU 問題および解決方法

- OS のインストール プロセスが中断され、サーバがリブートする。

  ウォッチドッグ タイマーの値を決定します。ウォッチドッグ タイマーは、C シリーズ サーバの BIOS の新機能です。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも短い期間に設定されていると、OS のインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグ タイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバをリブートするか、電源をオフにします。OS のインストール プロセスを開始する前に、ウォッチドッグ タイマー機能をディセーブルにします。

- 仮想 USB をマッピングするか、物理的な USB を接続した後でも、UCS-SCU で次のメッセージが表示される。

```
No USB Disk on Key detected
```

  - vmedia を通じてマッピングした USB デバイスについては、vmedia GUI から [**USB reset**] の選択を試みます（[virtual media session] -> [details] -> [USB reset]）
  - 物理的な USB デバイスについては、ベンダーおよび製品情報を確認するか、異なるデバイスを試します。

- Windows OS をインストールした後、KVM マウスが動作せず、Windows デバイス マネージャで、USB ヒューマン インターフェイス デバイスに黄色の「!」が表示される。

  CIMC のバージョンを確認します。サーバに最新版の CIMC がインストールされていることを確認します。

- Windows 2008 のインストールが失敗し、次のメッセージが表示される。

```
Selected disk has MBR partition table.On EFI systems, Windows can only be installed to GPT
disks.
```

  仮想ドライブの EFI CD-ROM デバイスが、Windows 2008 イメージのブートに使用されました。BIOS の CD-ROM 順から CD-ROM デバイスを使用します。

- UCS-SCU を通じて Windows オペレーティング システムをインストールした後、Windows デバイス マネージャで一部のデバイスに黄色の「!」が表示される。
  - デバイスがシスコのサポート マトリクスにない。
  - SCU GUI で一部のデバイス ドライバを選択していない。

- Windows セットアップが BSOD 0x7B（ブート デバイスがアクセス不可）で失敗する。

  SCU GUI でブート コントローラのデバイス ドライバを選択していない。

- CIMC の変更は、UCS-SCU ですぐに反映されません。

  サーバが SCU によって起動されている場合、CIMC を使用して仮想ディスクに対して行った変更は、SCU のユーザ インターフェイスですぐに表示されない場合があります。CIMC と同期するように、サーバをリブートします。

- 電源投入時セルフ テスト（POST）中に、LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 コントローラの両方が検出されるが、LSI 2008 コントローラのみが UCS-SCU に表示される。

  LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 は、UCS-SCU で同時にサポートされません。両方が存在する場合、LSI 2008 のみが検出されます。LSI 内蔵 MegaRAID を検出するには、コントローラを取り外します。

索 引

B

BIOS ブート順序の設定 8-1

C

cisco.com
- iso イメージ 2-1

cisco flexible flash
- ブート 2-2
- 概要 2-2

I

iso イメージ 2-1

K

KVM コンソール 2-3
- ブート 2-4
- 概要 2-3

L

Linux OS のインストール 6-10, 6-12

O

OS のインストール 6-1

R

RAID 設定 8-2

U

UCS-SCU の終了 2-5

UCS のマニュアル 2-2

V

vKVM でのブート 2-5

W

Windows OS のインストール 6-4

お

オペレーティング システム 1-1

か

概要 2-3

関連資料 2-2

く

クイック テスト
- サーバ スナップショット 3-7

さ

サポートされる 1-1

サポートされる RAID デバイス 1-2

サポートされるオペレーティング システム 1-1

し

周辺デバイス　1-2
取得　2-1

は

ハードウェアおよびソフトウェアの要件　1-2

ふ

プラットフォーム　1-2

ろ

ログ　9-1
ログの保存　9-1
ログ ファイル
　サーバ スナップショット　3-8